

## 保護者集計・分析

### 問1 お子さんは、学校に行くのを楽しみにしていますか。

	とても楽しみにしている	少しは楽しみにしている	あまり楽しみにしていない	ほとんど楽しみにしていない
小学校	1407	935	120	18
%	56.7% (55.9%)	37.7% (38.8%)	4.8% (4.9%)	0.7% (0.5%)
中学校	591	649	97	19
%	43.6% (39.9%)	47.9% (50.4%)	7.2% (7.8%)	1.4% (1.9%)
全体	1,998	1,584	217	37
%	52.1% (50.6%)	41.3% (42.7%)	5.7% (5.8%)	1.0% (0.9%)

小学校では、「とても楽しみにしている」「少しは楽しみにしている」の合計が90%を超えている。

中学校では「とても楽しみにしている」が小学校よりも約13ポイント少なくなっている。

### 問2 あなたは学校行事（授業参観、PTAの会合や行事、体育祭や音楽発表会など）に参加していますか。

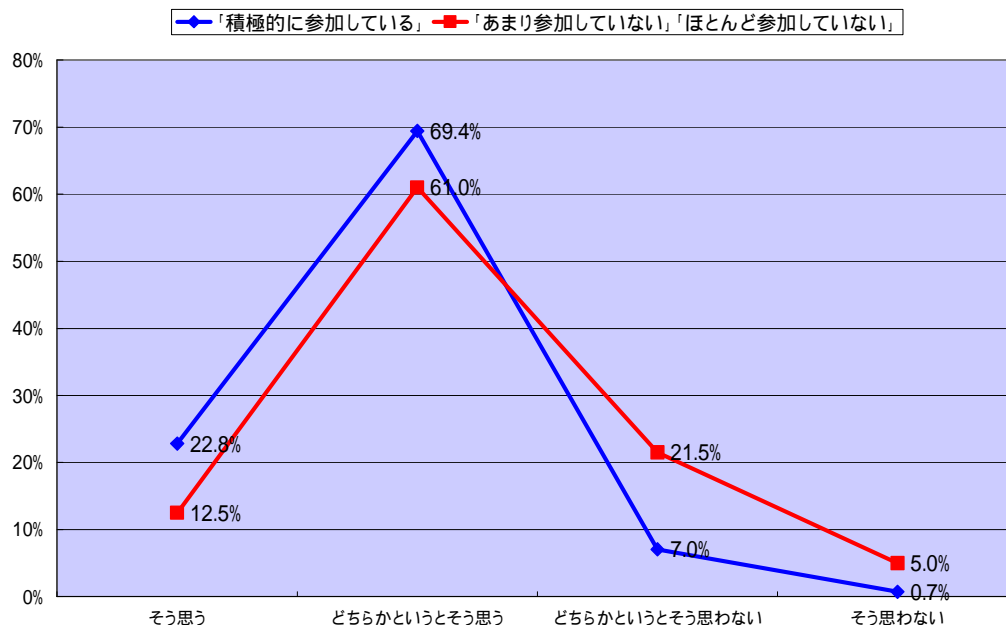
	積極的に参加している	ある程度参加している	あまり参加していない	ほとんど参加していない
小学校	972	1409	87	28
%	38.9% (34.9%)	56.5% (59.6%)	3.5% (4.2%)	1.1% (1.3%)
中学校	281	801	193	90
%	20.6% (19.2%)	58.7% (58.1%)	14.1% (16.4%)	6.6% (6.4%)
全体	1,253	2,210	280	118
%	32.5% (29.6%)	57.2% (59.1%)	7.3% (8.3%)	3.1% (3.0%)

小学校では、「積極的に参加している」「ある程度参加している」の合計が90%を超えている。

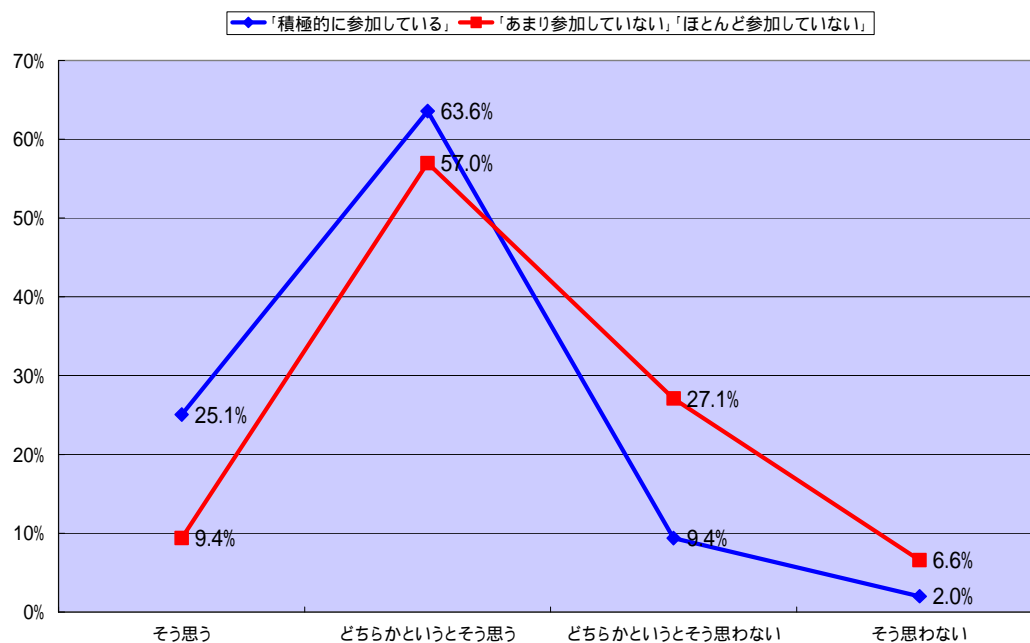
中学校では、「あまり参加していない」「ほとんど参加していない」の合計が20%を超えている。

## 参考 保護者の学校行事への参加状況とその他の項目の関連

### 「子どもにきちんとしつけをしている方だと思いませんか」への回答との関連

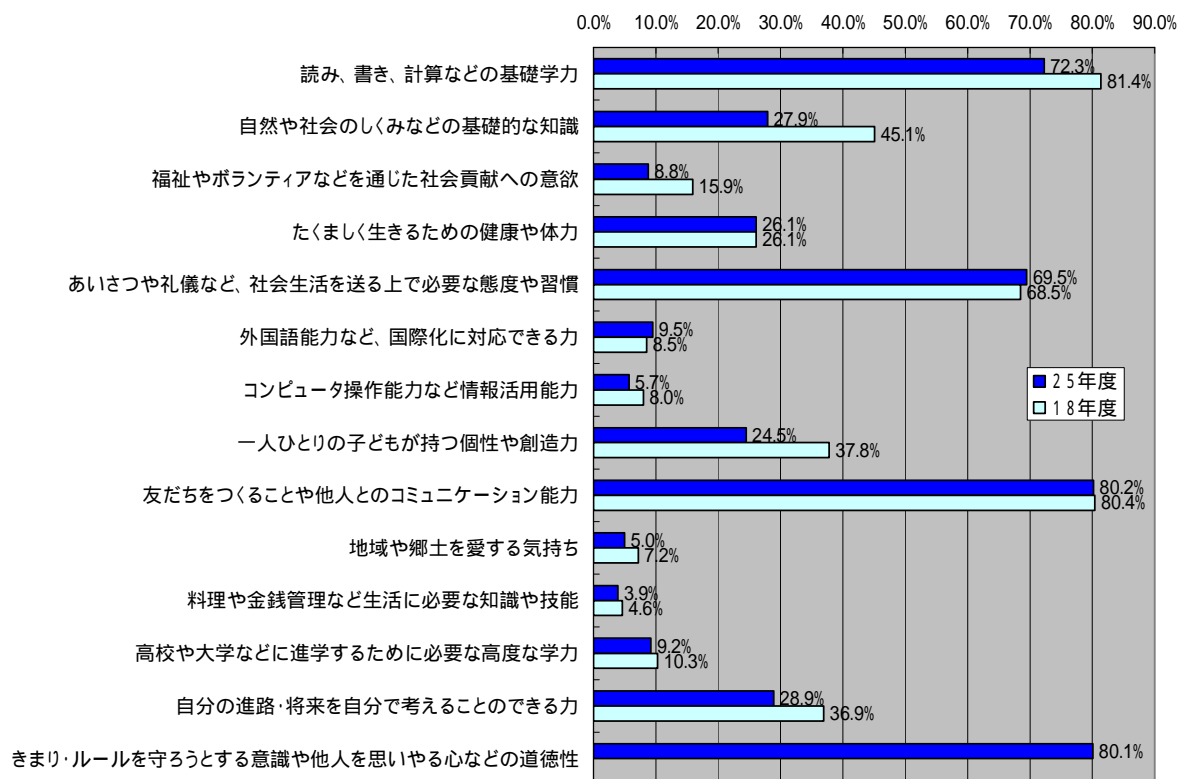


### 「自分の学校区（地域）で、子どもの教育について家庭・地域・学校の連携・協力が十分行われていると思いませんか」への回答との関連

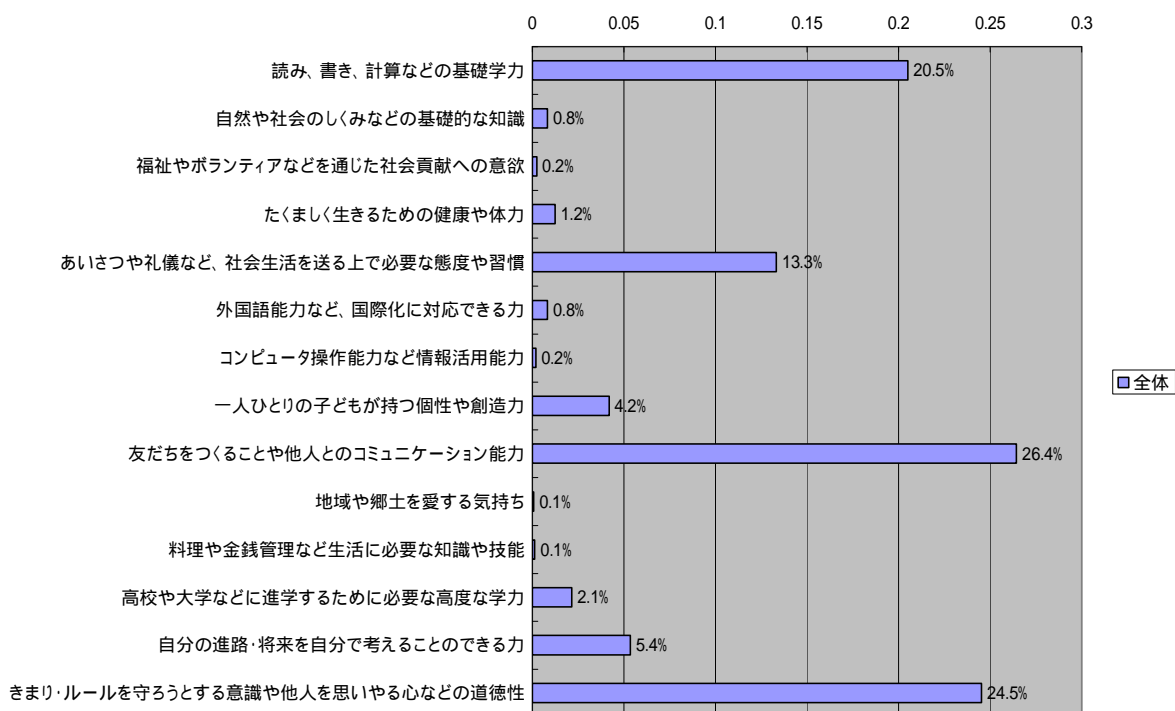


学校行事に「積極的に参加している」保護者は、子どもにきちんとしつけをしていると考えている割合が高い。また、自分の学校区の家庭・地域・学校の連携・協力の現状についても肯定的にとらえている割合が高い。この傾向は平成18年度と変わっていない。

問3(1) 小中学校の教育で、どんな力を身に付けさせることを期待していますか。



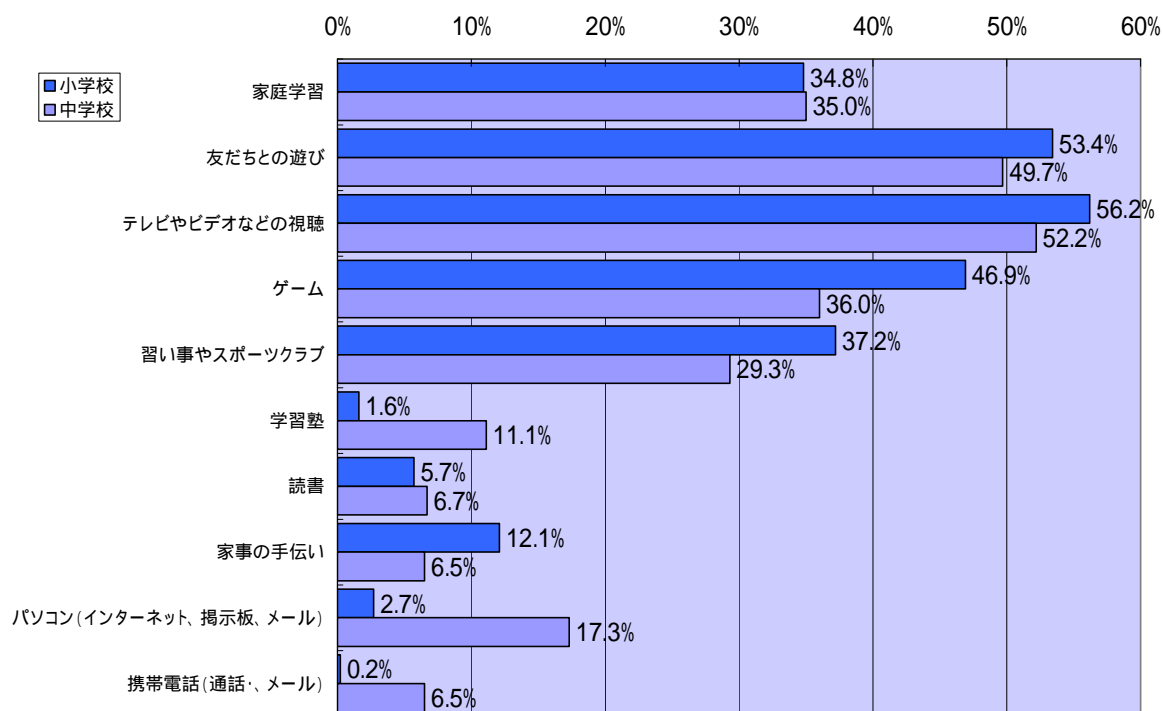
(2)(1)でつけたものの中で順位を付けるとしたら、最も期待するものはどれですか。



「読み、書き、計算などの基礎学力」については、保護者では72.3%（18年度は81.4%）が挙げており、3番目に多いが、教員では最も多く、86.4%（18年度は92.0%）となっている。  
 保護者では「友達をつくることや他人とのコミュニケーション能力」についてが最も多く、80.2%（18年度は80.4%）が挙げている。教員は76.8%（18年度は84.1%）となっている。  
 「きまりルールを守ろうとする意識や他人を思いやる心などの道徳性」は今回の調査で新たに選択肢に加えたが、保護者が80.1%、教員が73.5%で、高い割合を占めている。

## 休日の土曜日における子どもの家庭での過ごし方

問4 お子さんは休日の土曜日に、主にどのようなことをして過ごしていますか。（は3つ以内）



小中学生とも、テレビやビデオの視聴、友達との遊び、ゲームが上位を占めている。テレビやビデオの視聴に加えて、友達と過ごしたり、家庭学習をしたりと、休日を計画的に活用している様子がうかがえる。  
 パソコンでインターネットやメールをしたり、携帯電話で通話やメールをしたりする割合は、小学生から中学生にかけて、それぞれ2.7% 17.3%、0.2% 6.5%へと大きく増加する。

## 家庭教育についての考えや家庭での様子

### 問5 子どもにきちんとしつけをしている方だと思いますか。

	そう思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	そう思わない
小学校	383	1,776	313	31
%	15.3% (16.5%)	71.0% (70.5%)	12.5% (12.2%)	1.2% (0.7%)
中学校	182	955	180	19
%	13.6% (17.1%)	71.5% (68.6%)	13.5% (13.0%)	1.4% (1.2%)
全体	565	2,731	493	50
%	14.7%(16.7%)	71.1%(69.9%)	12.8%(12.5%)	1.3% (0.9%)

全体では、「そう思う」14.7%、「どちらかというと思う」71.1%の割合であり、85.8%の保護者が、子どもにきちんとしつけをしていると考えている。平成18年度におけるこの割合は86.6%であり、ほぼ変わっていない。平成18年度と比較すると、「そう思う」と回答した割合が2ポイント減少している。教員意識調査では、「しつけや基本的な生活習慣が身に付いていない子どもが増えている」について、「そう思う」「ややそう思う」と回答した教員は、85.1%となっている。また、「家庭は、子どもにきちんとしつけをしていると思いますか」という問いに、「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した教員は44.3%にとどまっている。保護者と教員に大きな意識のずれがある。

### 問6 具体的な項目について、お聞かせください。

「おはよう」「いただきます」「ありがとう」などのあいさつをできるようにさせる。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	1,371	1,082	51	6
%	54.6% (54.9%)	43.1% (42.3%)	2.0% (2.4%)	0.2% (0.4%)
中学校	682	626	36	7
%	50.5% (47.3%)	46.3% (48.0%)	2.7% (4.2%)	0.5% (0.5%)
全体	2,053	1,708	87	13
%	53.2% (52.4%)	44.2% (44.2%)	2.3% (3.0%)	0.3% (0.4%)

「かなり心がけている」「ある程度心がけている」割合は97.4%であり、ほぼすべての保護者があいさつの励行を心がけている。平成18年度と平成25年度において、大きな差は見られない。児童生徒の意識調査で、「小さい頃から家の人によく言われ、いつも心がけていること」で「きちんとあいさつをすることや礼儀正しくすること」を回答した小学生の割合は、66.1%、中学生の割合は90.8%であり、保護者が意識している割合と実際の子どもの実態にはずれがある。

人に迷惑をかけない。また、かけたときはきちんとあやまることを教える。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	1,712	781	13	2
%	68.3% (69.4%)	31.1% (29.1%)	0.5% (1.3%)	0.1% (0.2%)
中学校	872	461	15	3
%	64.5% (65.1%)	34.1% (33.8%)	1.1% (0.8%)	0.2% (0.3%)
全体	2,584	1,242	28	5
%	67.0% (67.9%)	32.2% (30.7%)	0.7% (1.2%)	0.1% (0.2%)

「かなり心がけている」「ある程度心がけている」割合は99.2%であり、ほぼすべての保護者が、人に迷惑をかけないことやかけてしまった場合はきちんとあやまることを子どもに教えている。

平成18年度と平成25年度において、大きな差は見られない。

この項目は、教員が「家庭教育で親が心がけるべきことの中で、特に重要だと思うこと」の第1位である。

物事を深く考える力を付けるため読書などの習慣を付けさせる。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	185	1,043	1,034	248
%	7.4% (7.7%)	41.6% (47.6%)	41.2% (38.4%)	9.9% (6.2%)
中学校	88	567	548	143
%	6.5% (7.5%)	42.1% (43.0%)	40.7% (40.9%)	10.6% (8.6%)
全体	273	1,610	1,582	391
%	7.1% (7.6%)	41.8% (46.1%)	41.0% (39.2%)	10.1% (7.0%)

「かなり心がけている」「ある程度心がけている」割合は48.9%であり、あいさつや他へ迷惑をかけないなどの基本的な生活習慣に関する項目に比べると、保護者の意識は高いとは言えない。

平成18年度に比べ、「かなり心がけている」「ある程度心がけている」割合は、4.8ポイント減少している。

中学生になると、保護者の読書などへの習慣付けの意識が減少する。

欲しいものがあったとしてもすぐに買い与えず、がまんをする経験をさせる。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	567	1,725	189	30
%	22.6% (25.0%)	68.7% (66.4%)	7.5% (7.6%)	1.2% (1.0%)
中学校	312	920	101	15
%	23.1% (24.2%)	68.2% (67.0%)	7.5% (7.8%)	1.1% (0.9%)
全体	879	2,645	290	45
%	22.8% (24.8%)	68.5% (66.6%)	7.5% (7.7%)	1.2% (1.0%)

「かなり心がけている」「ある程度心がけている」割合は91.3%であり、ほとんどの保護者が子どもに我慢をする経験をさせている。

平成18年度と平成25年度において、大きな差は見られない。

「ちょっとくらい嫌なことや苦しいことをがまんできない子どもが増えている」という問いに、「そう思う」「ややそう思う」と回答した教員の割合は90.2%であり、保護者が心がけている割合と教員の意識にずれがある。

家族団らんの時間をつくり、子どもの話や悩みを聞く時間をつくる。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	569	1,659	252	26
%	22.7% (22.2%)	66.2% (66.0%)	10.1% (11.1%)	1.0% (0.7%)
中学校	303	864	157	19
%	22.6% (24.4%)	64.3% (62.2%)	11.7% (12.4%)	1.4% (1.1%)
全体	872	2,523	409	45
%	22.7% (22.9%)	65.5% (64.7%)	10.6% (11.5%)	1.2% (0.8%)

「かなり心がけている」「ある程度心がけている」割合は88.2%であり、ほとんどの保護者が家族団らんの時間をつくり、子どもの悩みや話を聞く時間をつくっている。平成18年度に比べて大きな差異はない。また、小学校と中学校で保護者の意識にも大きな差異がない。

平成18年度と比べて、20代の保護者で「かなり心がけている」「ある程度心がけている」割合が、大きく増加している。

#### <参考>年代別の比較

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
20代	18.5% (14.9%)	76.9% (67.3%)	4.6% (15.8%)	0.0% (2.0%)
30代	22.3% (23.2%)	65.2% (64.9%)	11.5% (11.2%)	1.0% (0.7%)
40代	23.3% (23.0%)	65.5% (64.3%)	9.9% (11.7%)	1.3% (0.9%)
50代	20.6% (22.8%)	64.5% (65.5%)	13.5% (11.0%)	1.3% (0.7%)

我が家のきまりやルールをつくり、子どもに守らせるようにする。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	485	1,605	372	38
%	19.4%(19.9%)	64.2%(62.6%)	14.9%(15.6%)	1.5%(1.8%)
中学校	243	852	214	28
%	18.2%(18.3%)	63.7%(59.0%)	16.0%(19.8%)	2.1%(2.9%)
全体	728	2,457	586	66
%	19.0%(19.4%)	64.0%(61.4%)	15.3%(17.0%)	1.7%(2.2%)

「かなり心がけている」「ある程度心がけている」割合は83.0%であり、多くの保護者が自分の家のきまりやルールをつくり、子どもに守らせようとしている。平成18年度に比べて、「かなり心がけている」「ある程度心がけている」割合に大きな差異はない。また、小学校と中学校で保護者の意識にも大きな差異がない。教員への意識調査では、教員の53.1%が「しつけや基本的な生活習慣を学校に依存しすぎる傾向がある」と回答している。学校と家庭の役割分担などをテーマに、学級懇談会などで話し合うことも有効だと考える。

時間を守る、約束を守るなど社会生活で大切なきまりやルールを教えている。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	1,167	1,275	53	5
%	46.7%(48.8%)	51.0%(47.5%)	2.1%(3.5%)	0.2%(0.2%)
中学校	663	633	40	6
%	49.4%(49.3%)	47.2%(48.6%)	3.0%(1.7%)	0.4%(0.4%)
全体	1,830	1,908	93	11
%	47.6%(49.0%)	49.7%(47.9%)	2.4%(2.9%)	0.3%(0.3%)

「かなり心がけている」「ある程度心がけている」割合は97.3%であり、ほとんどの保護者が時間を守る、約束を守るなど社会生活で大切なきまりやルールを子どもに教えている。

平成18年度に比べて、大きな差異は小・中学校ともない。

と同様、学校と家庭の役割分担などをテーマに、学級懇談会などで話し合うことも有効だと考える。



子どもの家事分担を決め、家の仕事をやらせている。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	361	1,084	864	198
%	14.4% (12.1%)	43.2% (44.8%)	34.5% (36.4%)	7.9% (6.7%)
中学校	201	584	429	127
%	15.0% (12.1%)	43.5% (43.8%)	32.0% (34.7%)	9.5% (9.4%)
全体	562	1,668	1,293	325
%	14.6% (12.1%)	43.3% (44.5%)	33.6% (35.8%)	8.4% (7.6%)

「かなり心がけている」「ある程度心がけている」割合は57.9%であり、半数を超える保護者が家庭で子どもに家の仕事を手伝わせている。

平成18年度に比べると、「かなり心がけている」割合が、小学校・中学校とも2～3ポイント増加している。

児童生徒への意識調査では、「自分が必ずする手伝い（決められた仕事）があるか」という問いに、「毎日する仕事がある」小学生は33.2%、中学生は26.2%「ときどきする仕事がある」小学生は48.7%、中学生は48.1%という結果である。保護者の心がけ以上に、児童生徒は進んで手伝いをしていることが分かる。

規則正しい生活、食事のマナーなど基本的な生活習慣を身に付けさせる。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	775	1,570	148	12
%	30.9% (31.1%)	62.7% (62.3%)	5.9% (6.1%)	0.5% (0.5%)
中学校	349	880	97	17
%	26.0% (25.8%)	65.5% (65.2%)	7.2% (8.6%)	1.3% (0.5%)
全体	1,124	2,450	245	29
%	29.2% (29.3%)	63.7% (63.2%)	6.4% (6.9%)	0.8% (0.5%)

「かなり心がけている」「ある程度心がけている」割合は92.9%であり、ほとんどの保護者が、規則正しい生活、食事のマナーなど基本的な生活習慣を身に付けさせるようにしている。

平成18年度に比べて、大きな差異はない。

年代別では、「かなり心がけている」割合は、50代の保護者が最も高く、40代の保護者が他に比べて低い。

<参考>年代別の比較

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
20代	33.3%	61.9%	3.2%	1.6%
30代	31.2%	61.6%	6.6%	0.6%
40代	27.0%	66.1%	6.1%	0.8%
50代	34.8%	54.2%	9.0%	1.9%

毎日朝食を食べさせる。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	2,229	249	22	7
%	88.9% (86.7%)	9.9% (11.0%)	0.9% (2.0%)	0.3% (0.3%)
中学校	1,156	155	25	6
%	86.1% (84.7%)	11.5% (13.0%)	1.9% (2.2%)	0.4% (0.1%)
全体	3,385	404	47	13
%	87.9% (86.0%)	10.5% (11.7%)	1.2% (2.1%)	0.3% (0.3%)

「かなり心がけている」「ある程度心がけている」割合は98.4%であり、ほぼすべての保護者が、毎日朝食を食べさせることを心がけている。

平成18年度に比べると、「かなり心がけている」割合が、小学校・中学校とも増加している。

若干値は下がるものの、児童生徒と保護者の数値差に大きな差異がなく、保護者の心がけが、ほぼ子どもの実態に反映されている。

<参考>児童生徒との比較

	毎日、主食と副食を バランスよく食べる	毎日食べるが、主食や 副食に偏りがある	朝食を食べるときと 食べないときが半々	ほとんど食べない
小学生	66.1%	28.1%	4.5%	1.4%
中学生	56.7%	37.3%	3.8%	2.2%

テレビやゲームの時間を決めて、守らせようとしている。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	560	1,451	431	66
%	22.3% (24.0%)	57.9% (56.3%)	17.2% (16.9%)	2.6% (2.9%)
中学校	211	729	316	89
%	15.7% (15.9%)	54.2% (58.3%)	23.5% (21.4%)	6.6% (4.3%)
全体	771	2,180	747	155
%	20.0% (21.3%)	56.5% (57.0%)	19.4% (18.4%)	4.0% (3.3%)

「かなり心がけている」「ある程度心がけている」割合は76.5%であり、4人に3人の保護者がテレビやゲームの時間を守らせようとしている。

【参考】平日、テレビやビデオ・DVDを3時間以上見る児童生徒の割合

小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
7.1%	9.1%	11.9%	14.5%	10.3%	12.6%	12.8%

子どもに言うだけでなく、自らお手本となるような生活や生き方を心がけている。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	243	1,756	457	49
%	9.7%(11.3%)	70.1%(69.3%)	18.2%(17.5%)	2.0%(1.8%)
中学校	149	904	240	43
%	11.2%(11.7%)	67.7%(69.8%)	18.0%(16.1%)	3.2%(2.4%)
全体	392	2,660	697	92
%	10.2%(11.5%)	69.3%(69.5%)	18.1%(17.1%)	2.4%(2.0%)

「かなり心がけている」「ある程度心がけている」割合は79.5%であり、ほぼ8割の保護者が、自らお手本となるように心がけている。

平成18年度調査と、割合はほぼ同じである。

年代層を比較すると、若い年代の保護者ほど、「あまり心がけていない」「ほとんど心がけていない」割合が増加する。

【参考】年代別の割合

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
20代	10.9%	60.9%	25.0%	3.1%
30代	8.9%	69.3%	19.6%	2.2%
40代	10.5%	69.7%	17.2%	2.6%
50代	19.5%	66.2%	13.0%	1.3%

**問7 あなたが子供の頃、親から言われたことやしつけは今の生活や子育てに役立っていますか。**

	とても役立っている	どちらかといえば役立っている	どちらかといえば役立っていない	ほとんど役立っていない
小学校	821	1,422	183	73
%	32.9% (36.5%)	56.9% (54.6%)	7.3% (7.2%)	2.9% (1.8%)
中学校	430	775	111	24
%	32.1% (34.7%)	57.8% (55.3%)	8.3% (7.9%)	1.8% (2.1%)
全体	1,251	2,197	294	97
%	32.6% (35.9%)	57.2% (54.8%)	7.7% (7.4%)	2.5% (1.9%)

「とても役立っている」「どちらかといえば役立っている」割合は、89.8%であり、ほとんどの保護者が、自分が子どもの頃に言われたことやしつけが今の生活や子育てに役立っていると回答している。

平成18年度と比較しても、大きな差異は見られない。

年代別の比較では、年代ごとに多少の差異があるものの、明らかな傾向を示すものではない。

**【参考】年代別の割合**

	かなり役立っている	どちらかといえば役立っている	どちらかといえば役立っていない	ほとんど役立っていない
20代	32.8%	59.4%	4.7%	3.1%
30代	31.7%	57.8%	7.6%	2.9%
40代	33.1%	57.2%	7.5%	2.2%
50代	36.4%	50.6%	10.4%	2.6%

**問8 家庭の教育力が低下しているのではないかとありますが、あなたはどのように思いますか。**

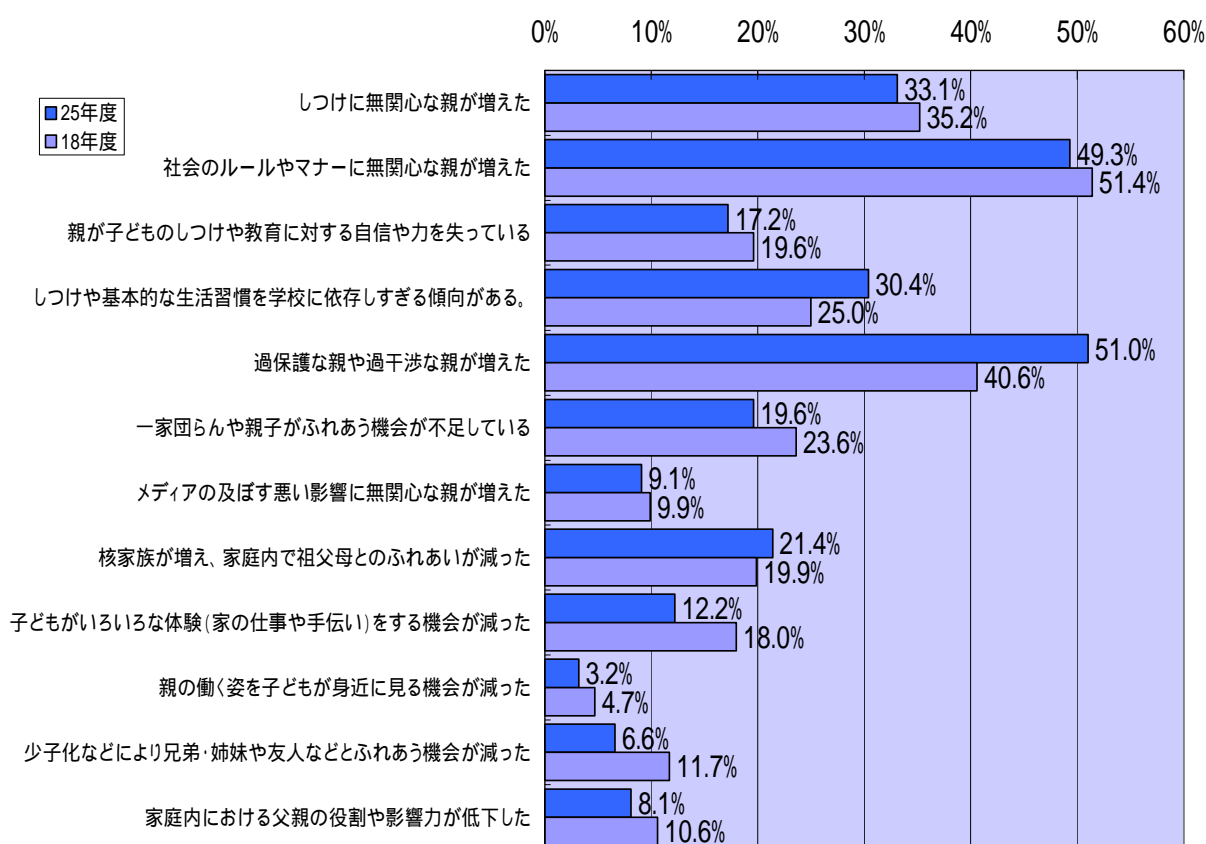
	かなり低下している	やや低下している	変化はない	やや向上している	かなり向上している
小学校	406	1,335	661	62	21
%	16.3% (19.8%)	53.7% (55.9%)	26.6% (20.6%)	2.5% (3.2%)	0.8% (0.5%)
中学校	270	742	298	22	8
%	20.1% (25.1%)	55.4% (53.2%)	22.2% (19.8%)	1.6% (1.7%)	0.6% (0.2%)
全体	676	2,077	959	84	29
%	17.7% (21.6%)	54.3% (55.0%)	25.1% (20.3%)	2.2% (2.7%)	0.8% (0.4%)

「かなり低下している」「やや低下している」割合は、72.0%であり、約7割の保護者が、家庭の教育力は低下していると考えている。

平成18年度と比較すると、「かなり低下している」と考える保護者の割合は、小学校・中学校とも減少している。

小学校よりも中学校の保護者の方が、「かなり低下している」「やや低下している」と考える保護者の割合が5.5ポイント高くなっている。

「かなり低下している」「やや低下している」と回答した人のみ  
**問9 低下していると回答した理由や低下の原因は何だと思えますか。家庭の教育力が低下しているのではないかという声もありますが、あなたはどのように思いますか。( は3つ以内)**



理由や原因としてあげられた項目で最も多かったものは、「過保護な親や過干渉な親が増えた」で51.0%。平成18年度の40.6%よりも約10ポイント上昇している。

次いで、「社会のルールやマナーに無関心な親が増えた」で49.3%である。

教員意識調査における原因の上位項目は、「しつけや基本的な生活習慣を学校に依存しすぎる傾向がある」「社会のルールやマナーに無関心な親が増えた」「過保護な親や過干渉な親が増えた」である。保護者と教員の意識はほぼ同じであるが、特に教員は、親が家庭の教育力低下のついでを学校に依存していると考えている。

問 10 子どもの基本的な生活習慣（起床・睡眠・食事など）の定着は学習意欲や成績に関係があると調査結果にあります。あなたはどのように思いますか。

	かなり 関係があると思う	ある程度 関係があると思う	あまり 関係がないと思う
小学校	1,422	1,005	57
%	57.2% (60.7%)	40.5% (37.1%)	2.3% (2.2%)
中学校	713	573	41
%	53.7% (59.1%)	43.2% (38.8%)	3.1% (2.1%)
全体	2,135	1,578	98
%	56.0% (60.2%)	41.4% (37.7%)	2.6% (2.1%)

「かなり関係がある」「ある程度関係がある」の割合は、97.4%であり、ほぼ全員の保護者が、基本的な生活習慣の定着と学習意欲や成績は関係があると考えている。平成18年度調査及び小学校と中学校において大きな差異は見られない。保護者の年代が上がるにつれて、「かなり関係がある」と回答している割合が増えている。

【参考】年代別の割合

	かなり 関係があると思う	ある程度 関係があると思う	あまり 関係がないと思う
20代	45.3% (45.5%)	50.0% (49.5%)	4.7% (5.0%)
30代	53.9% (60.1%)	44.0% (37.8%)	2.1% (2.1%)
40代	57.7% (61.2%)	39.7% (36.9%)	2.7% (1.9%)
50代	62.7% (55.2%)	32.0% (40.6%)	5.2% (4.2%)

問 11 子ども部屋にテレビ（DVD）などが必要だと思いますか。

	必要だと思う	ある程度必要だと思う	あまり必要でないと思う	必要ないと思う
小学校	27	244	735	1,485
%	1.1% (1.6%)	9.8% (13.3%)	29.5% (32.8%)	59.6% (52.2%)
中学校	14	162	410	751
%	1.0% (2.7%)	12.1% (19.5%)	30.7% (33.4%)	56.2% (44.5%)
全体	41	406	1,145	2,236
%	1.1% (2.0%)	10.6% (15.4%)	29.9% (33.0%)	58.4% (49.6%)

「必要だと思う」「ある程度必要だと思う」は約12%である。平成18年度と比べて、必要だと考える割合は減っている。

問 1 2 子ども（小学生～中学生）に携帯電話は必要だと思いますか。

	必要だと思う	ある程度必要だと思う	あまり必要でないと思う	必要ないと思う
小学校	62	488	760	1,184
%	2.5% (1.8%)	19.6% (21.2%)	30.5% (34.9%)	47.5% (42.1%)
中学校	25	193	394	723
%	1.9% (2.3%)	14.5% (20.2%)	29.5% (32.2%)	54.2% (45.3%)
全体	87	681	1,154	1,907
%	2.3% (2.0%)	17.8% (20.9%)	30.1% (34.0%)	49.8% (43.2%)

「必要だと思う」「ある程度必要だと思う」は約 20%である。

携帯電話はいつそう普及したが、平成 18 年度と比べて必要だと考える割合はやや減っている。

中学校の方が、「必要ない」と答える割合が高い。

問 1 3 家庭・地域・学校が連携・協力し合うことは、子どもの教育に必要なことだと思いますか。

	とても必要だと思う	ある程度必要だと思う	あまり必要でないと思う	ほとんど必要ないと思う
小学校	1,576	870	39	5
%	63.3% (63.5%)	34.9% (34.3%)	1.6% (1.6%)	0.2% (0.6%)
中学校	726	583	23	6
%	54.3% (56.0%)	43.6% (41.3%)	1.7% (1.9%)	0.5% (0.8%)
全体	2,302	1,453	62	11
%	60.1% (61.0%)	38.0% (36.6%)	1.6% (1.7%)	0.3% (0.7%)

「とても必要だと思う」「ある程度必要だと思う」の合計は 98.1%であり、平成 18 年度と同様、ほとんどの保護者が子どもの教育に家庭・地域・学校の連携・協力が必要であると考えている。

問 1 4 子どもたちに身に付けさせたい次の能力は、家庭・学校のどちらが担うべきだと思いますか。

あいさつや礼儀など、社会生活を送る上で必要な態度、習慣

	家庭	どちらかといえば家庭	どちらかといえば学校	学校
小学校	1,188	1,148	122	16
%	48.0% (51.4%)	46.4% (42.6%)	4.9% (4.8%)	0.6% (1.2%)
中学校	604	653	67	9
%	45.3% (52.9%)	49.0% (42.7%)	5.0% (3.6%)	0.7% (0.8%)
全体	1,792	1,801	189	25
%	47.1% (51.9%)	47.3% (42.6%)	5.0% (4.4%)	0.7% (1.1%)

「家庭」「どちらかといえば家庭」の合計は、94.4%であり、平成18年度とほぼ同じ割合である。

小学校、中学校の違いによる大きな差異はない。

友だちをつくることやコミュニケーション能力

	家庭	どちらかといえば家庭	どちらかといえば学校	学校
小学校	103	306	1,677	385
%	4.2% (5.6%)	12.4% (12.7%)	67.8% (64.7%)	15.6% (16.9%)
中学校	75	200	855	203
%	5.6% (6.4%)	15.0% (13.1%)	64.1% (61.5%)	15.2% (19.1%)
全体	178	506	2,532	588
%	4.7% (5.9%)	13.3% (12.8%)	66.6% (63.7%)	15.5% (17.7%)

平成18年度と同様、学校への期待が大きく、「どちらかといえば学校」「学校」を合計すると、82.1%である。

前掲の問3(1)「小中学校の教育で、どんな力を身に付けさせることを期待していますか」においても、友だちを作ることや他人とのコミュニケーション能力の育成は、最も割合が高い。

家庭では家族の関係の中で、学校では集団の中でのコミュニケーション力をつけるなど、家庭・学校の双方が連携して子どもたちのコミュニケーション能力、人間関係づくりの力を高めていく必要がある。



## たくましく生きるための健康や体力

	家庭	どちらかといえば家庭	どちらかといえば学校	学校
小学校	406	957	961	132
%	16.5% (20.3%)	39.0% (39.0%)	39.1% (35.0%)	5.4% (5.7%)
中学校	223	459	544	96
%	16.9% (18.6%)	34.7% (32.5%)	41.1% (40.7%)	7.3% (8.3%)
全体	629	1,416	1,505	228
%	16.6% (19.7%)	37.5% (36.8%)	39.8% (36.9%)	6.0% (6.5%)

「家庭」「どちらかといえば家庭」は、54.1%、「学校」「どちらかといえば学校」は、45.8%であり、回答が分かれている。

教員意識調査の問2「学校ではどんな力を身に付けさせるべきだと思いますか」で、「たくましく生きるための健康や体力」は、平成18年度の52.7%から平成25年度は44.8%へと減少している。学校において、運動の機会を確保しながら、体力向上の取組を計画的に推進してほしい。

### 問15 あなたの学校区（地域）では、子どもの教育について家庭・地域・学校の連携・協力が十分行われていると思いますか。

	そう思う	どちらかというそう思う	どちらかというそう思わない	そう思わない
小学校	491	1624	297	62
%	19.8% (16.8%)	65.6% (64.6%)	12.0% (15.0%)	2.5% (3.5%)
中学校	185	861	232	51
%	13.9% (14.0%)	64.8% (63.0%)	17.5% (18.7%)	3.8% (4.3%)
全体	676	2,485	529	113
%	17.8% (15.9%)	65.3% (64.1%)	13.9% (16.2%)	3.0% (3.8%)

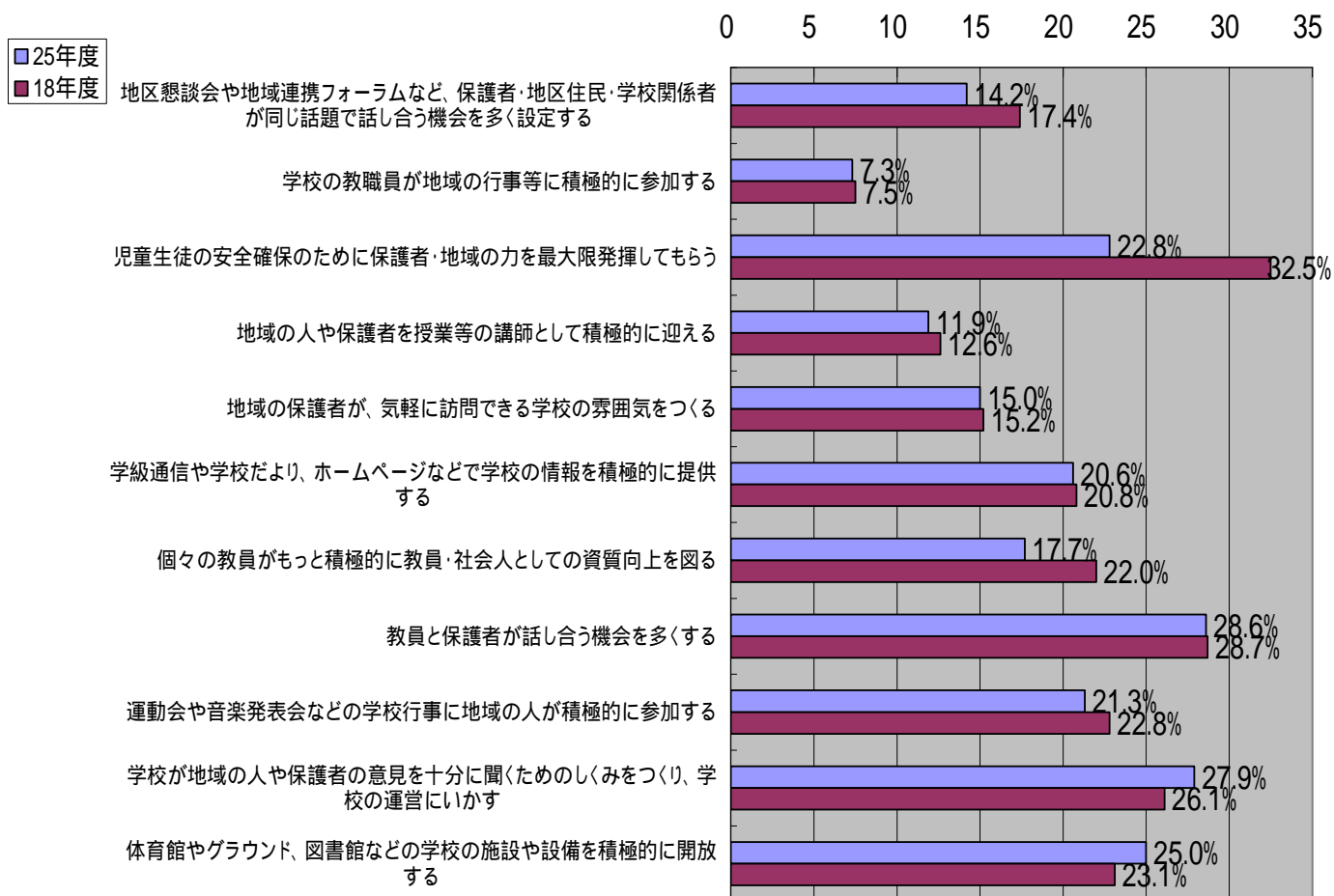
「そう思う」は17.8%、「どちらかというそう思う」は65.3%であり、自分の学校区（地域）で家庭・地域・学校の連携がある程度行われていると考えている保護者は83.1%である。この割合は、平成18年度の80.0%から更に上昇しており、各学校区で地域とともに歩む学校づくりが推進されている成果であると考えられる。前掲の問13「家庭・地域・学校が連携・協力し合うことは、子どもの教育に必要なことだと思いますか」について、98.1%の保護者が、「必要だと思う」「ある程度必要だと思う」と回答していることと合わせ、学校づくりを進める上で、家庭・地域・学校の連携は重要なものになっていることがうかがえる。

参考 保護者と教員の意識の比較

あなたの学校区(地域)は、子どもの教育について家庭・地域・学校の連携・協力が十分に行われていると思いますか				
	そう思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	そう思わない
保護者全体	17.8%	65.3%	13.9%	3.0%
教員全体	17.7%	68.0%	13.2%	1.1%

上の表のように、学校区（地域）における子どもの教育についての家庭・地域・学校の連携・協力の状況に関する、保護者と教員の認識は、ほとんど同じである。

問 16 家庭・地域・学校がより連携・協力し、子どもたちの教育を進める上で、重要であると考える取組に をつけてください。( は3つ以内)



保護者が、家庭・地域・学校がより連携・協力し、子どもの教育を進める上で重要であると考える取組の上位3項目は以下のとおりである。

「教員と保護者が話し合う機会を多くする」28.6%

「学校が地域の人や保護者の意見を十分に聞くためのしくみをつくり、学校の運営にいかす」27.9%

「体育館やグラウンド、図書館などの学校の施設や設備を積極的に開放する」25.0%

「教員と保護者が話し合う機会を多くする」「学校が地域の人や保護者の意見を十分に聞くためのしくみをつくり、学校の運営にいかす」は、平成18年度、平成25年度ともに25%を越え、長い目で見ても連携・協力のための大きな柱であることがうかがえる。

「児童生徒の安全確保のために保護者・地域の力を最大限発揮してもらおう」は、平成18年度では、32.5%と、連携・協力のための最重要課題であることを示していたが、平成25年度では、22.8%と、約10ポイント減少している。児童生徒の安全確保への保護者・地域の参加・協力が定着していることがうかがえる。

「体育館やグラウンド、図書館などの学校の施設や設備を積極的に開放する」が、25.0%と、「安全確保」に替わり上位3項目に入ってきている。地域内の交流のための学校の施設利用、コミュニティスクールとしての学校の役割に対して、期待が大きくなってきていると考えられる。

### 問17 あなたの地域活動への参加や地域の子どもたちを対象とする活動について質問します。

地域の子どもと一緒に遊んだり、スポーツしたりをするような活動について

	積極的にやっている	たまにやっている	あまりやらない	まったくやらない
小学校	357	941	817	372
%	14.4% (15.7%)	37.8% (38.5%)	32.9% (34.3%)	14.9% (11.5%)
中学校	128	370	490	352
%	9.6% (11.1%)	27.6% (33.0%)	36.6% (36.3%)	26.2% (19.6%)
全体	485	1,311	1,307	724
%	12.7% (14.2%)	34.3% (36.7%)	34.2% (35.0%)	18.9% (14.2%)

「積極的にやっている」「たまにやっている」47.0%であり、平成18年度の50.9%と比較すると、3.9ポイント減少している。

児童生徒意識調査中の問35 - の結果からも、地域でスポーツをする機会が少なくなっている傾向がうかがわれる。

## 町内のお祭りや運動会など地域の行事への参加について

	積極的に参加している	たまに参加している	あまり参加していない	ほとんど参加していない
小学校	1,475	804	128	91
%	59.0% (56.9%)	32.2% (34.9%)	5.1% (5.6%)	3.6% (2.6%)
中学校	490	552	171	129
%	36.5% (40.6%)	41.1% (42.3%)	12.7% (9.8%)	9.6% (7.3%)
全体	1,965	1,356	299	220
%	51.2% (51.5%)	35.3% (37.3%)	7.8% (7.0%)	5.7% (4.2%)

「積極的に参加している」は小学校保護者で59.0%、中学校保護者で36.5%、全体でも過半数を越える51.2%の保護者が地域のお祭りや運動会などの行事には積極的に参加している。

「積極的に参加している」「たまに参加している」の合計は86.5%となり、高い割合を示しているものの、その数値は平成18年度の88.8%に比べるとわずかに減少している。

## 地域の子どもがいたずらや悪いことをしたときにしかること。

	かなりある	たまにある	あまりない	ほとんどない
小学校	156	1,367	721	255
%	6.2% (7.1%)	54.7% (59.3%)	28.9% (25.6%)	10.2% (8.0%)
中学校	62	607	474	205
%	4.6% (5.2%)	45.0% (48.5%)	35.2% (33.9%)	15.2% (12.4%)
全体	218	1,974	1,195	460
%	5.7% (6.5%)	51.3% (55.7%)	31.1% (28.4%)	12.0% (9.4%)

「かなりある」「たまにある」を合計すると57.0%であり、平成18年度と比べると5.2ポイント減少している。

参考 児童生徒の実態「いたずらや悪いことをして、町内や地域のおとなにしかられた。」

	かなりある	たまにある	あまりない	ほとんどない
小学校全体	0.8%	4.3%	11.0%	83.9%
中学校全体	1.5%	6.1%	15.7%	76.7%

児童生徒意識調査中の問35 - 「いたずらや悪いことをして、町内や地域のおとなにしかられた」という設問に「かなりある」「たまにある」と答えたのは、小学生は5.1%、中学生は7.6%である。また、「ほとんどない」は、保護者が12.0%であるのに対し、小学生、中学生ともに75%を越えており、保護者と子どもたちの意識の違いは大きい。この傾向は平成18年度でも見られたが、保護者は、叱ったつもりでも、子どもたちにとっては、叱られたという感覚が薄いのではないかと考えられる。

町内や地域の子どもが良いことをしたときにほめること。

	かなりある	たまにある	あまりない	ほとんどない
小学校	335	1,438	536	174
%	13.5% (11.2%)	57.9% (59.4%)	21.6% (22.9%)	7.0% (6.4%)
中学校	136	642	408	157
%	10.1% (9.0%)	47.8% (51.2%)	30.4% (30.3%)	11.7% (9.5%)
全体	471	2,080	944	331
%	12.3% (10.5%)	54.4% (56.7%)	24.7% (25.4%)	8.7% (7.5%)

「かなりある」「たまにある」を合計すると66.7%となり、「地域の子どもがいたずらや悪いことをしたときにしかること」よりも高い割合を示している。

中学校保護者より、小学校保護者の方が数値は高いことは、小学校保護者の方が子どもたちにかかわる場面が多いためであると考えられる。

児童生徒調査では、「かなりある」「たまにある」は、小学生58.2%、中学生50.1%である。子どもにとって、地域の大人との関係では、叱られたことよりもほめられたことが、子どもの心により強く残っているのではないかと考えられる。

#### 地域のボランティア活動について

	積極的に参加している	たまに参加している	あまり参加していない	ほとんど参加していない
小学校	295	944	639	612
%	11.8% (11.4%)	37.9% (37.2%)	25.7% (27.6%)	24.6% (23.8%)
中学校	135	508	354	346
%	10.0% (11.0%)	37.8% (39.6%)	26.4% (24.9%)	25.8% (24.5%)
全体	430	1,452	993	958
%	11.2% (11.2%)	37.9% (38.0%)	25.9% (26.7%)	25.0% (24.0%)

全体では49.1%が「積極的に参加している」「たまに参加している」と答えており、小学校、中学校での差や平成18年度との差はほとんどない。

#### 参考 年代別の割合

	積極的に参加している	たまに参加している	あまり参加していない	ほとんど参加していない
20代	12.3%	32.3%	27.7%	27.7%
30代	10.7%	35.4%	26.0%	27.9%
40代	11.2%	39.6%	26.0%	23.1%
50代	16.8%	45.2%	21.9%	16.1%

年代別の数値を見ると、年代の高い保護者ほど、地域のボランティア活動に積極的であるといえる。

児童生徒調査では、「積極的に参加している」「たまに参加している」と回答した割合は、小学生50.1%、中学生49.7%であり、保護者の数値と大きな差はない。保護者の意識が子どもの行動に影響していると考えられるので、保護者を巻き込んで実施できるような活動を検討していくことが必要と考えられる。

町内や地域の子どもたちと道であったとき、あいさつをしたり声をかけたりすることについて

	積極的にしている	時々している	あまりしていない	ほとんどしていない
小学校	1,194	1,105	142	57
%	47.8% (41.1%)	44.2% (49.5%)	5.7% (6.9%)	2.3% (2.5%)
中学校	521	675	90	60
%	38.7% (38.4%)	50.1% (50.0%)	6.7% (7.9%)	4.5% (3.7%)
全体	1,715	1,780	232	117
%	44.6% (40.2%)	46.3% (49.7%)	6.0% (7.2%)	3.0% (2.9%)

全体では「積極的にしている」44.6%、「時々している」46.3%、合計すると90.9%となり、多くの保護者が、町内や地域の子どもにあいさつをしたり声をかけたりするようにしている。

小学校と中学校で大きな差はない。また、「積極的にしている」「時々している」の合計は、平成18年度の89.9%とほとんど変わらない。

児童生徒調査では、「道路であったときなど、町内や地域のおとなとあいさつをかわしている」に「かなりある」「たまにある」と回答した割合は、小学生81.8%、中学生78.5%である。中学生の数値は平成18年度よりも約5ポイント上昇しており、地域や町内の大人とあいさつを交わす運動や取組が浸透してきたものとうかがえる。

町内や地域の伝統文化、歴史について教えるような活動について

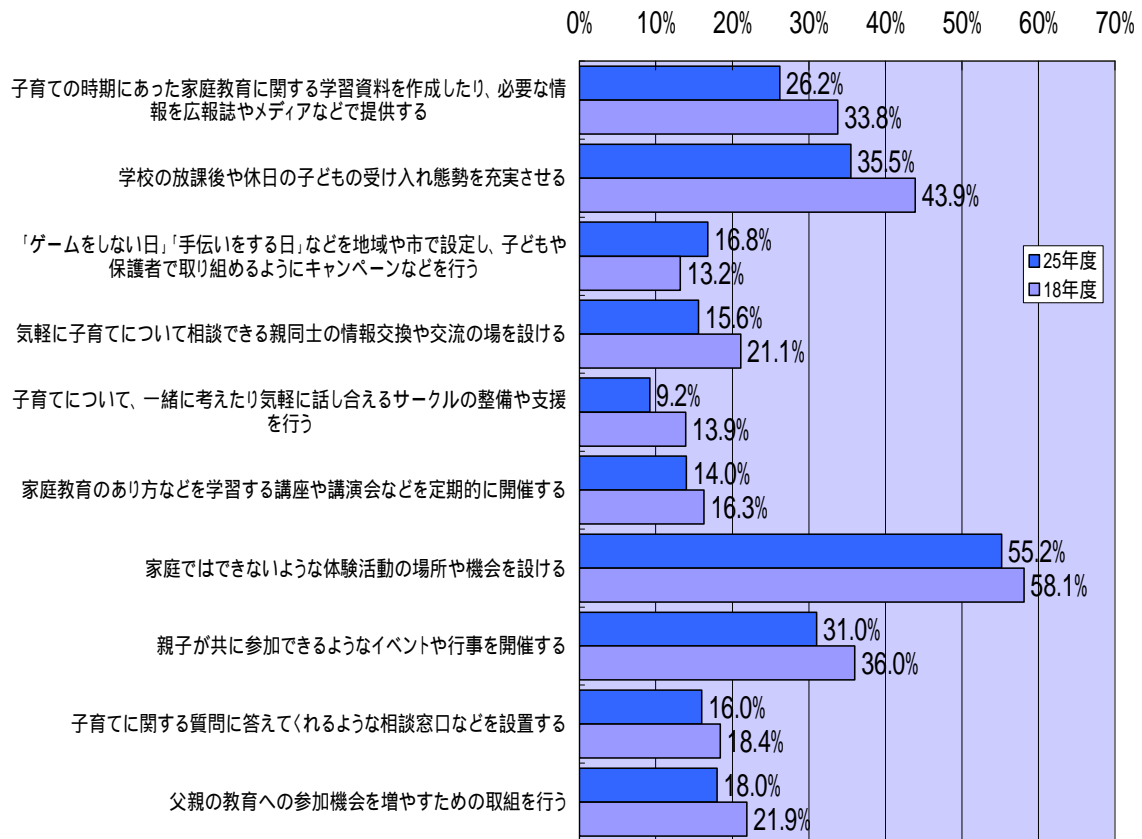
	積極的にしている	時々している	あまりしていない	ほとんどしていない
小学校	95	350	748	1,281
%	3.8% (3.9%)	14.1% (14.8%)	30.2% (32.6%)	51.8% (48.7%)
中学校	52	172	418	687
%	3.9% (3.3%)	12.9% (15.7%)	31.5% (33.2%)	51.7% (47.9%)
全体	147	522	1,166	1,968
%	3.9% (3.7%)	13.7% (15.1%)	30.7% (32.8%)	51.7% (48.4%)

平成18年度と同様、「積極的にしている」「時々している」を合計しても、20%に満たない。町内や地域でこのような機会が減少していることが大きな要因であると考えられる。

児童生徒意識調査では、「地域の伝統や歴史などについて教えてもらった」という設問

に、「かなりある」「たまにある」は、小学生24.2%、中学生18.9%であり、全体的には保護者の数値と同じ傾向である。

**問18 あなたは家庭教育への支援として行政（市役所）にどんなことを期待していますか。特に必要であると思うことに つけてください。（は5つ以内）**



保護者の期待で一番多い項目は、「家庭ではできないような体験活動の場所や機会を設ける」であり、当市が進める熱中！感動！夢づくり教育の中で、そうした機会を充実させてほしいという思いがうかがえる。

子育てに関する情報提供等に関する項目については、「子育ての時期に合った家庭教育に関する学習資料を作成したり、必要な情報を広報誌やメディアなどで提供したりする」は、33.8%から26.2%へと減少した。人と接しながら学習したり情報提供を受けたりするようなシステムより、広報誌やメディアでの情報収集が平成18年度よりも進んでいることがうかがえる。

『「ゲームをしない日」「手伝いをする日」などを地域や市で設定し、子どもや保護者で取り組めるようにキャンペーンなどを行う』については、13.2%から16.8%へと上昇している。メディア漬けによる子どもへの影響が指摘される中で、家庭や地域単位での取組の必要性を保護者が感じ取っていることの裏付けといえる。すでに中学校区単位で「ノーメディアデー」のような取組を進めているところもあり、これらの取組が浸透してきていることがうかがえる。

長岡市は、子どもたちが豊かな体験と確かな学びで夢を描く力と生き抜く自信を育むことができるよう、「熱中！感動！夢づくり教育」を推進しています。そのことにかかわって質問します。当てはまる番号に をつけてください。

問19 「熱中！感動！夢づくり教育」を知っていますか。

	名前も内容もだいたい知っている	名前も内容も少しは知っている	名前は知っているが内容はよく知らない	名前も内容もよく知らない
小学校	396	424	713	965
%	15.9%	17.0%	28.5%	38.6%
中学校	391	334	371	248
%	29.1%	24.9%	27.6%	18.4%
全体	787	758	1,084	1,213
%	20.5%	19.7%	28.2%	31.6%

「名前も内容もだいたい知っている」「名前も内容も少しは知っている」の小中合計は40.2%にとどまっており、十分な周知が保護者に図られているとは言えない現状がわかった。

「名前も内容もだいたい知っている」「名前も内容も少しは知っている」の合計は、中学校で54.0%、小学校で32.9%となっており、約21ポイントの開きがある。市として、夢づくり教育の概要や全体像を保護者に広くPRし、周知を図っていかねばならない。就学時家庭教育講座における保護者への直接の説明や年度始めのリーフレット一斉配布などを行っていききたい。

問20 お子さんには、本気になって取り組んでいることや大好きで熱中していることはありますか。

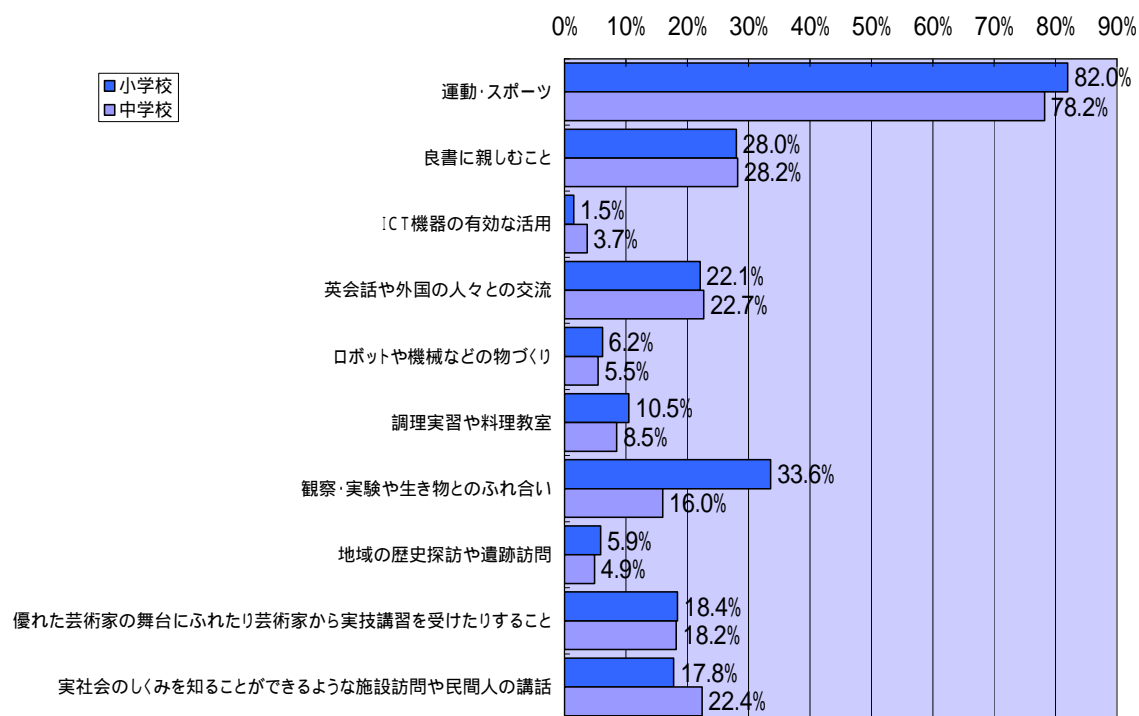
	ある	ない
小学校	1,667	804
%	67.5%	32.5%
中学校	1,029	299
%	77.5%	22.5%
全体	2,696	1,103
%	71.0%	29.0%

小学校と中学校を比較すると、子どもが「本気になって取り組んでいることや大好き熱中していることがある」割合が、中学校で10ポイント上回っている。

中学校では、部活動に打ち込んだり、自分の趣味を見いだしたりして、情熱の焦点をもつ生徒が多いと考えられるが、それでも小中学生全体の約3割がそうしたものをもっていないと保護者がとらえている。



問 2 1 お子さんには、どのようなことに熱中したり感動したりしてほしいと思いますか。当てはまる番号に をつけてください。( は3つ以内)



小中学校全体で、運動・スポーツに熱中したり感動したりしてほしいと考えている保護者が約8割に上ることが分かった。

しかし、この問いは自分の子どもについての回答であり、全体で見ると子どもの個性に応じて、期待が多岐にわたっていることがうかがえる。

問 2 2 学校教育や教育行政・施策にかかわり、教育委員会に望むことがありましたら、自由にお書きください。

項目	小学校保護者	中学校保護者
・教員の資質・指導力向上	9 6	6 3
・教員の多忙化解消	1 2	6
・家庭の教育力向上	1 3	7
・学校・家庭・地域の連携	3 0	1 8
・学校施設の整備・充実	5 8	1 3
・少人数クラスの編制	1 4	0
・家庭への経済的支援	1 1	6
・教育施策の充実	1 7 2	5 0
・特別支援教育の充実	7	0
・土曜授業	2 3	7
・部活動	1 1	0
・いじめ	2 2	1
・交通安全等について	1 0	0